

2016年は、モンゴル（9月12日～16日）を訪問しました。

日本労働ペンクラブ 2016年モンゴル国訪問スケジュール

| | 9月 | 午前 | 午後 | 夜間 |
|---|-----------------|---|--|--|
| 1 | 12日 (月) 晴 | 成田空港第一ターミナル南ウイング4階 Jカウンター集合 (12時30分) | ⇒OM502 出発遅延 1440⇒1635⇒(機内夕食) →ウランバートル空港 着 2010⇒2200 | ウランバートル空港→ ホテル→(軽食ボックス) →チンギスハーンH泊 * 両替 |
| 2 | 13日 (火) 晴 | 0830 発 0845～1000 小中高一貫校 (新モンゴル学園) →1030～1130 労働社会保護省→(昼食) | 1330～1430 モンゴル労働組合連盟(CMTU)→ 1530～1630 モンゴル経営者連盟(MONEF)→ 1645～1730 ILOモンゴル事務所 | 1800 民族舞踊歌唱観賞 →1900 夕食 →チンギスハーンH泊 |
| 3 | 14日 (水) 晴 | (チェックアウト) 900～1000 トヨタ販売店→1100～1200 日本大使館→(昼食) | 1330～1430 モンゴル国立大学(名古屋大学日本法教育研究センター)→ 大チンギス騎馬像→テレルジ国立公園 | 郊外泊(テレルジ) ツーリストホテル(ゲルスタイル)夕食⇒泊 |
| 4 | 15日 (木) 晴 | 0830 発 観光(テレルジ)遊牧民ゲル生活訪問 →亀石→(昼食) | 日本人墓地跡追悼碑→ ザイサントルゴイ(豪ソ 戦勝記念碑)→ガンダン 寺→食品市場→デパート | JICAモンゴル社会保険 強化プロジェクト→夕 食会(シャングリラH) チンギスハーンH泊 |
| 5 | 16日 (金) 晴 | 0630 ホテル出発→ウ ランバートル空港→OM 501便 0855発→帰国へ | →成田着 1340 (手荷物受領後順次解散) | |

訪問団員の報告

枯れ草の原野に行く

中村章

ウランバートルは煉瓦とコンクリートの無機質な街だった。ソ連文化圏の名残だろう。古い建物が
多いことや、広告の看板やネオンがほとんど無いことも無機質さを助長している。

道路は、道幅も狭く渋滞している。そこを、日本車、特にプリウスの中古車があちこちで走ってい
た。今年前半の中古車販売台数 1500 台中 1100 台がプリウスで占められている。エコカーで税金がか
からないことが効いていると聞いた。

国立公園のテレルジに向かって草原をバスが走った。緑の草原をイメージしていたが、ほとんど枯れ
草の原野だった。季節が秋に向かっていたせいかもしれない。

そんな草原にいる牛や山羊が意外に肥っているのが印象的で、こんな枯れ草でも栄養価が高いのか
と不思議に感じた。

今回の訪問直前の総選挙で政権が変わり、省庁の再編が進行中など、体制の不安定さを実感させられた。そんな中でも新モンゴル学園のナランバヤル校長や、トヨタセンターのエンフサイハン事業開発マネジャー（いずれも日本留学経験者）など、30代とおぼしき方々の活躍を見て、この世代を軸にこの国が変わっていくのだろうと感じさせられた。

余談だが、現地の人たちのゲルで、馬乳酒とモンゴル紅茶を飲ませてもらった。馬乳酒は、甘酒を少し酸っぱくしたもの、紅茶は、塩入りで、ポタージュのような味がした。現地でなければ味わえない体験だった。

若い国、知恵で発展

森下一乗

ロシア、中国に挟まれて、社会主義国から民主化を経て、高度経済成長を経験してきた。現在は低成長に悩んでいるが、鉱山、石油、無煙炭、ウラン、金、最近ではレアメタルが大量に埋蔵されているという、資源に恵まれた国である。

歴史的に見ても、大国に挟まれている中で、よくも、独立を維持してきたものだと感心させられる。

よほど、指導者の知恵と、我慢、外交術が優れていた賜物なのであろう。

300万人の人口は、日本の4倍と言われる国土に比較して少ないように感じられるが、出生率は日本と大差なく、人口の増大は期待できそうもない。そうなれば、資源を挺にして、経済成長をいかに上げていくかが課題であろう。

一時期、外資制限法を実施したが、外資の流入が激減して、その法律を撤廃しなければならない事態になったようだ。

官僚の交換教育も取り入れているが、自国の官庁に信頼できる国から、指導的な官僚を出向させることも大切ではなかろうか。また、優秀な人材を自費で採用すべきであろう。モンゴルが今後高い成長を果たすために、必要な知恵を提案したい。

①レアメタル、無煙炭、石油、ウラン等について、原料のままの輸出はできるだけ禁止し、加工してから輸出することを国策とすること、②観光業は、重点的に育成し、ゲルへの宿泊、ゴビ砂漠への旅を各国に宣伝する、③外資法を整備し、出資国の利益と、モンゴル国の利益をイーブンとする政策を安定的に実施する。その中で、海外からの技術移転を計画的に導入する、④中国、ロシアの影響力を下げつつ、第3国との間で、交流対象国を増やす、⑤人材育成に従来以上に力を入れるとともに、官僚の地位を上げて、成果を上げれば国有企業の経営を任せる等のインセンティブを導入する、⑥トヨタ車が6割を占める国であることを踏まえて、トヨタの修理工場、将来は組み立て工場の進出を要請する。

以上、これからのモンゴルは、資源の活用をしながら、留学生を含めた官僚の知恵、他国の経験を学ぶことにより、成長路線を目指すことが望ましい。そのためには、若者の知恵を重用すること、いろいろに厳しい国になってほしいものである。

長谷川氏に特別功労賞

モンゴル経営者連盟

モンゴル経営者連盟は、視察団として訪問中だった日本労働ペンクラブ代表代理・長谷川真一氏(日本ILO協議会専務理事)に、「モンゴルの民間セクター発展へ継続的な支援と貢献をした」として、「特別功労賞」(BEST EMPLOYERS)を贈った。



長谷川氏によると、日本人の受賞者は過去にも何人かいるとのこと。2006年、ILOアジア太平洋総局長時に、強制労働撲滅のための政労使の地域セミナー(アジアの数カ国の政労使が参加)主催者としてモンゴルを訪問。また、日本政府のILO代表として機会をとらえては「雇用創出における民間企業の役割が重要、そこでの建設的な労使対話が大切」と訴えてきた。長谷川氏は「私が民間セクターでの労使対話の重要性を訴えてきたことが印象に残ったようです」と話している。

新モンゴル学園の図書館にはマンガも置いてあると説明するナランバヤル校長



新モンゴル学園の図書館にはマンガも置いてあると説明するナランバヤル校長



新政権発足で省庁再編があり引っ越しの合間を縫って労働省のマリアー部長に対応していただきました



同行の穴山さんに随所で案内をしていただきました。歴史的背景などの説明もあり大変分かりやすいものでした（ウランバートル、ジンギス・ハーン広場で）



ジンギス・ハーン像の前で



モンゴル経営者連盟ガンバアタル副会長兼専務理事から経済情勢と日本とモンゴルの経済関係について話を伺いました



ILO モンゴル事務所ではマイヤー中国・モンゴル事務所長からモンゴルでの ILO の役割について話を伺いました



トヨタ自動車販売のエンフサイハン社長から同社の事業と雇用状況について説明を受けました



日本大使館前で



モンゴル大学法学部につくられた日本法教育研究センターで学ぶ学生に抱負を聞きました



テレルジでのキャンプ場で。遊牧民の移動式住居であるゲルで宿泊しました



ゲルで生活する遊牧民の家庭を訪問しました



遊牧民の家庭の近くでラクダに乗りました



日本人墓地の慰霊碑を参拝しました。訪問団の藤井さんに読経していただきました



モンゴルで社会保障を定着させるために活動している JICA の山下護プロジェクトリーダーから説明を受けました